

## 慶大ボクシング部・佐藤監督に聞く／BOX

2016.5.26 16:20

福澤諭吉が創設した大学で、「独立自尊」を教育の基本とするのは有名。1991年の入替戦で3部リーグに転落したものの、2014年シーズンに悲願の2部リーグ復帰を果たした慶大ボクシング部。お洒落でスマートな“慶応ボーイ”のイメージが強いが、実は、慶大ボクシング部の歴史は古く「慶應義塾拳闘倶楽部」が前身。「練習ハ不可能ヲ可能ニス」を掲げる慶応ボーイらを指揮する佐藤友治監督から、第69回関東大学ボクシングリーグ戦について話を聞いた。(岩崎仁)

——初戦終わってチームの状況、雰囲気は

「初戦の日体大戦は2対5で勝てなかったものの、昨年のリーグ戦終了後から約1年かけて目指してきたチームの姿に近くなってきた。我が部の特徴である団結力をさらに高め、チーム一丸となってこれからの1戦、1戦を丁寧に戦っていきたい」

——普段の練習や日常生活は

「部員の寮はないため、ほとんどが実家暮らしか、一人暮らし。部員同士が会うのは週6日の練習に限られるが、練習後、食事を共にするなど先輩後輩にかかわらず仲睦まじくチームを作っている。練習は厳しく、ジムワークは3分3ラウンドを意識してメニューを組み、基礎を徹底した練習を全員で行う。その後、各自マスボクシングやスパーリングなど、自主性を重んじ学生同士が教え合う。ロードワークも3分3ラウンドを意識したインターバル走などを中心に行っている。土日は部内や出稽古に出かけてのスパーリング。各自の課題を新たに見つけ、翌週は課題の克服のための練習に取り組む」

「慶大ボクシング部は、スポーツ推薦枠がないため、『付属の高校でボクシングを行ってきた選手』『他の高校でボクシングを経験し、受験勉強を経て入学しボクシングを続ける選手』『大学に入学して、他のスポーツから転向してきた選手』が35人程度、常にレギュラーを競って日ごろから切磋琢磨しており、練習の質の高さ、選手の成長率、チームの団結力には自信がある」

——高校生のスカウトについて

「慶大にはスポーツ推薦はなく、AO入試(自己推薦入試)か一般受験しか入学する道がないため、選手獲得に苦労している。AO入試は本人重視の入試制度のため、過去の合格実績にとらわれず、是非、チャレンジしてもらいたい。AO入試にチャレンジする意欲のある学生がいると、本人、学校の先生、ご両親に相談しながら、OBと現役が一丸となって、AO入試のサポート体制を整える」

——学生時代にボクシングに取り組む学生に対して

「ボクシングは、肉体を鍛えあげた選手同士が殴り合う究極のスポーツ。この過酷なスポーツをチームで共に戦うことで、先輩、同僚、後輩など、一生来の素晴らしい仲間を作ってもらいたい。また、目標に向かって地道に努力を継続する力と、どんな困難な事にも真正面から挑戦する強い心を学んで卒業してもらいたい」

——監督にとっての関東大学ボクシングリーグ戦とは

「私は慶応義塾高等学校、慶応義塾大学在学中にボクシング部に所属し、卒業後約21年慶大ボクシング部にかかわっているが、やはり、各大学が聖地・後楽園ホールでチームとして戦う関東大学ボクシングリーグ戦には格別の思いがある。

今後もチーム全員で一丸となって1戦、1戦を大切に戦っていきたい」


## 慶応義塾體育會ボクシング部

創部1925年。2014年シーズンに悲願の2部復帰。春に「関東大学ボクシングリーグ戦」、冬に早大ボクシング部との「慶早ボクシング定期戦」、両戦ともに団体戦のため常にチームの団結力を発揮。

## 佐藤友治監督プロフィール

1967年10月2日生まれ、東京都・慶応義塾高等学校出身

---

 Copyright (C) 2016 SANKEI DIGITAL INC. All rights reserved.